

目次

- 1 竣工施設のご紹介
  - (1) かながわ県民センター改修工事 … 1
  - (2) 新まなびや計画に基づく耐震化・老朽化対策 … 2
  - (3) 山北町酒水の滝遊歩道整備事業 … 3
- 2 支部の活動報告
  - (1) 施設見学会 - 県立図書館 - … 4
  - (2) 建築セミナー - 村野藤吾の世界&美術館建築から見るフランス - … 5
- 3 トピックス
  - (1) 明治記念大磯邸園 … 7
  - (2) かながわ昭和たてもの散歩 … 8
  - (3) オープンしなけん ボランティア … 9





# 1 竣工施設のご紹介

## (1) かながわ県民センター改修工事

佐々 直哉（県 住宅営繕事務所）

かながわ県民センターは、横浜駅徒歩5分に位置する高層の県の庁舎です。貸会議室や展示場などを併設し、県民に様々なサービスを提供する機関が入居しています。

コロナ前の統計では、利用者が1日約2,400人、年間に換算すると80万人を超えており、このことから、県民に親しまれている施設ということが分かります。

今回は、令和4年6月に完成を迎えた、かながわ県民センターの改修工事についてご紹介させていただきます。

### 1 背景・目的

本施設は、昭和47年6月に竣工し、令和3年に築50年を迎えました。老朽化に伴い、屋上防水改修や外壁改修などは行っていたものの、建物内部については、県民利用者等の動線が多くあるため、改修が後回しとなっていました。特にエントランスホールなどの1・2階共用部は、天井材に、飛散性アスベスト（レベル1）が吹付けられており、改修をより難しくさせていました。

このような背景により老朽化し、暗い雰囲気となっている内部を刷新することで、県民が利用する施設としてふさわしい空間とすることを目的としています。

なお、本工事の対象は1・2階であり、他のフロアについては、通常稼働した状態での工事となりました。



### 3 内装木質化

工事のなかで、もっとも特徴的だったのが、神奈川県産木材を積極的に利用した内装木質化です。本工事では、建築基準法の内装制限をクリアしながら、神奈川県産木材であるスギやヒノキを採用しました。

フローリングに用いたスギは柔らかい材料であるため、本来的には土足での使用に向きませんが、表面材を圧密加工することにより、土足で利用しても傷が付きにくい丈夫な素材となっています。また、天井材にヒノキを採用することで、ヒノキの節の荒々しさ、木目の美しさなど、一般利用者の目をひくデザインとしています。

このように、それぞれの木材を適材適所に計画することで、意匠性だけではなく、耐久性や維持・メンテナンス性にも配慮しています。



### 4 終わりに

本施設は、県民にとって身近な相談・支援の場である反面、老朽化が進んでいたため、全体的に古びた暗い雰囲気となっていました。今回の改修を機に、県民利用者がより集いやすい、より使いやすい空間と感じていただければ幸いです。

特に、今回の改修のメインとなった内装木質化については、脱炭素社会の実現に向け、令和3年10月に林野庁より「建築物における木材の利用の促進に関する基本方針」が定められるなど、今後、ますます木材の有効的な利用が求められることになると考えられます。木材の適材適所の利用を設計時から熟慮し、引渡し後も管理しやすい、長寿命の建築物を目指す必要性を強く感じた現場となりました。

最後になりますが、この事業は、職場の上司・同僚をはじめ、事業主管課・施設・協力業者など、多くの関係者のご協力があり、無事完成を迎えられたものになります。この場をお借りして、お礼申し上げます。

## 2 工事概要

### (1) 建築物概要

所在地：横浜市西区鶴屋町2-24-2

用途地域：商業地域

主要用途：庁舎

構造：SRC造 地上15階、地下2階建

敷地面積：2,098.43㎡

建築面積：1,463.48㎡

延べ面積：18,440.98㎡

### (2) 事業概要

工期：令和3年7月7日～令和4年6月10日

工事費：297,114,400円

工事概要：アスベスト撤去

神奈川県産木材を活かした内装木質化  
サッシ・自動ドア更新  
LED照明化 等





## (2) 新まなびや計画に基づく耐震化・老朽化対策

柳澤 伸明（県 住宅営繕事務所）

平成 28 年度より始まった新まなびや計画に基づいて校舎、体育館等の耐震化・老朽化対策に取り組んでいます。令和 4 年度に担当した工事・設計の内容について紹介させていただきます。

### 1 保土ヶ谷高校 南棟・西棟

昭和 55 年に建設された南棟（RC 造 5/0、延べ 3,072 m<sup>2</sup>）、昭和 57 年に建設された西棟（RC 造 5/0、2,427 m<sup>2</sup>）。耐震ブレース 24 か所、構造スリット 53 か所の耐震補強工事と老朽化対策として屋上防水改修、外壁改修、トイレ改修、内装改修、建具改修を行いました。



### 3 横浜明朋高校 体育館

昭和 50 年に建設された体育館（RC 造 3/0、延べ 3,263 m<sup>2</sup>）。耐震診断結果では耐震補強不要となっていたが、外壁の鉄筋が爆裂により露出している箇所が多いなど外部の老朽化が激しかったため、外壁改修、外部建具改修を行いました。色彩計画は、平成 30 年度に建設された東棟、メディア棟にあわせた計画となっています。



### 2 山北高校 B棟

昭和 45 年に建設された B 棟（RC 造 4/0、延べ 4,530 m<sup>2</sup>）、渡り廊下（RC 造 3/0、108 m<sup>2</sup>）。RC 袖壁補強 2 か所、構造スリット 76 か所の耐震補強工事と老朽化対策として屋上防水改修、外壁改修（アスベスト除去を含む）、内装改修、建具改修を行いました。



### 4 小田原高校 体育館

昭和 56 年に建設された体育館（S 造 2/0、延べ 1,610 m<sup>2</sup>）。鉄骨ブレース 14 か所、柱脚補強 18 か所の耐震補強工事と老朽化対策として外壁改修、内装改修、建具改修を行います。内装改修では、屋根裏打ちのアスベスト含有断熱材を除去し、新たに断熱材を貼ります。



### 5 横浜緑ヶ丘高校 体育館

体育館と柔剣道場を一体化し本館、北館の跡地に新築にて整備をします（SRC 造 2/0、3,578 m<sup>2</sup>）。既存建物と適度に距離を保ちつつ、また閑静な住宅街に立地していることから、日影、騒音、圧迫感を低減するよう配慮した計画となっています。令和 6 年度完成を目指しています。



### 6 おわりに

現場ごとに抱える課題は様々で、予定通りいかないことも多いですが、一つ一つ課題解決を図りながら、工事完成を目指しています。



# 1 竣工施設のご紹介

## (3) 山北町洒水の滝遊歩道整備事業

成田 寛子（県 企業庁財産管理課）

神奈川県企業庁は、昭和 27 年の地方公営企業法の施行により、広域水道としては全国で初となる水道事業と、それまでに全国に先駆けて実施していた相模川河水統制事業を統合して発足しました。

これまで、地域経済の発展を図るための工業団地を造成し分譲を行ったほか、地域振興施設等整備事業として、公営企業として初めてのオフィスの建設、生活・文化関連施設の整備、テニスコートなどのスポーツ・レクリエーション施設の整備、駐車場整備など地域の活性化のための事業を展開しています。

今回は、地域振興施設等整備事業として行った山北町洒水の滝遊歩道施設の上屋付駐車場整備工事についてご紹介します。

### 1 背景・目的

地域振興施設は、市町の要請により整備して当該市町に有償譲渡したものと、企業庁の自主事業として整備したものがあり、ともに効率的な運営管理を図りつつ地域の振興に貢献しています。今回の、山北町洒水の滝遊歩道施設は、山北町からの要請を受けて、洒水の滝を魅力ある観光振興の拠点とするため、次のとおり、遊歩道及び観瀑台等を整備したものです。

施設名称：山北町洒水の滝遊歩道等施設

所在地：足柄上郡山北町平山

完成年度：令和 3 年度

施設概要：組立遊歩道、落石防護柵、法面保護網、上屋付駐車場

事業区分：要請事業

洒水の滝について

酒匂川の支流、滝沢川から流れ落ちる洒水の滝は、「日本の滝百選」、またその水は「全国名水百選」に選ばれている名瀑で、「洒水」＝「しやすい」の名は、密教用語で清浄を念じてそそぐ香水を指すと言われていています。雄大なその姿は三段からなり、一の滝の落差は 69m、二の滝は 16m、三の滝は 29m という豪快な滝で、古くから相模の国第一の滝とされ「新編相模国風土記稿」では、「蛇水の滝」と記されています。この滝は鎌倉時代の名僧文覚上人が百日間も滝に打たれる荒行を積んだ地としても知られており、付近には文覚上人が安置したといわれる滝不動尊（不動明王「穴不動」）があります。

### 2 設計概要

工事名：(仮称)山北町洒水の滝遊歩道駐車場整備工事

敷地面積：444.07 ㎡

地域地区：都市計画区域内（区域区分非設定）

構造：鉄骨造（軽量）

主要用途：自動車車庫

延べ面積：17.65 ㎡、最高高さ：2.629m

### 3 工事概要

#### (1) 工期

令和 3 年 12 月 7 日

～令和 4 年 3 月 25 日

#### (2) 内容

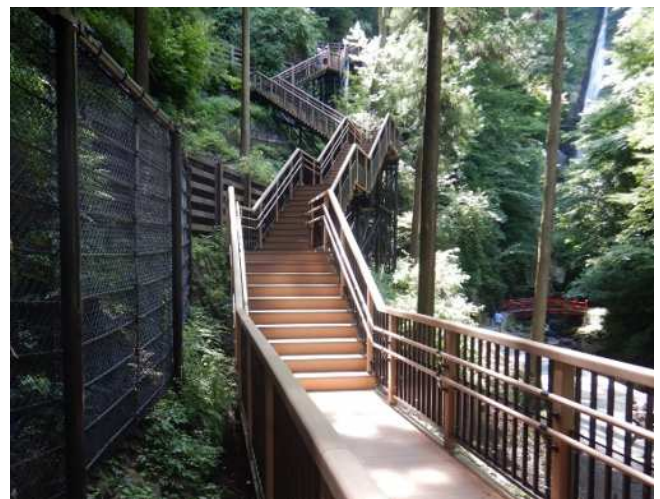
- ・ 樹木伐採、伐根
- ・ 砂利敷き整備
- ・ 駐車区画整備



- ・ 上屋付駐車場設置
- ・ 転落防止柵、看板設置

### 4 終わりに

本工事は、砂防指定地内行為となるため、許可を受けるところから始まりました。また樹木の伐採については、重機が地域住民用の昔ながらの小さな橋を渡ることができるか等、関係各所への確認調整が必要となりましたが、たくさんの方々にご指導頂き、無事に工事を完成させることができました。本当にありがとうございました。工事施工中は、地域住民の方から話しかけられる事も多く、高木等で全体的に薄暗いイメージだった駐車場が、風通しが良くなって明るいイメージに変わったと喜んで頂けたのが嬉しかったです。上屋付駐車場の先にある遊歩道は、全長 118.6m、最高地点は地上から 40m で、観瀑台が設けられ、大迫力の滝が眺められるスポットとなっています。ぜひ一度足をお運びください。





## (1) 施設見学会 — 県立図書館 —

中島 智恵子（県 建築安全課）

令和4年9月に前川國男設計の県立図書館の役割を引き継いだ県立図書館の新しい本館が開館しました。11月に、県庁職域支部主催の施設見学会に参加しましたので、その概要を報告します。

### 1 建築概要

住 所：横浜市西区紅葉ヶ丘 44（駅徒歩 10 分）

構 造：RC 造

建築面積：1,208.19 m<sup>2</sup>

延べ面積：3,759.78 m<sup>2</sup>

規 模：地上 4 階

用 途：図書館

設 計 者：(株)奥野設計

施 工 者：瀬戸・勝俣JVほか4社



木パネルは、本に直射日光を当てないようにしながら、自然光を屋内に届けており、素材を替え、旧本館のホローブリックと同じ機能を持たせたものとなっていました。また、床の色調や家具にも、その旧本館の雰囲気を感じられるような作りとなっています。



次に、特徴的といえるのは、1～3階に、調べものや集中して勉強する場所のほか、テラスやラウンジ、読書に集中する静寂な場所など様々な閲覧スペースがあり、来館者がその時々で、本と向き合う場所が選択できるようになっていることです。このように様々な閲覧スペースが配置されることで、今までの旧本館と異なり、図書館の「新たな価値」が感じられました。

また、4階は、学び⇄交流エリア、研究ブースが配されており、本館（新棟）は、近年の世界の図書館が持つ、学びとコミュニティの場にもなっています。

### 3 感想

紅葉坂に面するファサード、エントランスに入っすぐ目に留まる展示スペースを仕切るホローブリックなど、見学会が始まる前から、親しみを感じる図書館でした。

図書館の平面中央付近にある大きな回り階段も、この図書館の特徴の一つで、そこを中心として回遊ができ、各階の書架と閲覧スペース、上下階のつながりが感じられるものとなっていました。



## 2 内容

見学会は、事業概要や本館（新棟）設計にあたってのコンセプトなどについて説明があった後、館内の見学となりました。

平成28年に県がとりまとめた「県立図書館の再整備に向けた基本的な考え方」において、本館（新棟）に「価値を創造する図書館」、前川國男館（旧本館）に「魅せる図書館」という新たな機能を付加し、魅力的な図書館として再整備する方向性が示され、本館（新棟）から整備が始まったとのことでした。

「価値を創造する図書館」のコンセプトに対しては、従来の旧本館が持つ図書館の役割に加え、旧本館との連続性や本と向き合う視点などの要素を建築に落とし込む設計がされたそうです。

実際の見学で、館内を見て回った際、旧本館との連続性については、旧本館の象徴であるホローブリックをシンボルとして、文字やマーク等に使うだけでなく、ところどころ建築にも取り入れていました。

特に、紅葉坂に面した、1階から3階までのガラス張りの屋内側にある、ホローブリックの形状を模した有孔

## 4 終わりに

見学会を終え、そういえば、スマホを見る時間ばかり増え、本を読む機会が減ってしまったと感じました。本の貸し出しを行うだけではない、これからの図書館の在り方を見ることができ、久しぶりに本を読み、図書館を訪れようと思いました。



### (2) 建築セミナー

#### — 村野藤吾の世界 —

村島 正章（県住宅供給公社 賃貸事業部）

令和4年11月9日開催の建築セミナーで披露した「村野藤吾の世界」の内容の一部をお伝えします。

#### 1 村野藤吾の世界 第2弾

平成31年3月に開催された建築セミナーにおいて村野藤吾の世界を紹介した後、引き続き第2弾を行うべく、村野作品巡りを続けていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の波が収まらず、建築セミナーが毎年度中止になり、3年半ぶりの開催となりました。今回は、前回紹介できなかったもの、改めて訪れて内容を充実させたもの、この3年間で新たに見学したものの中から、併せて21施設29棟の建物を紹介しました。全国各地の村野作品巡りでは、殆ど夫婦旅行に合わせてセッティングして、家内も村野作品の特徴が分かるようになってきました。残念なことは、名古屋の丸栄百貨店など、特色のある建物がこの数年の間に姿を消したことです。



#### 2 村野藤吾について

村野は、昭和59年93歳で亡くなるまで現場に足を運び、生涯300を超える作品を残しました。没後に完成した建物もいくつかあります。村野と同時代に活躍した建築家と比較しても息の長さが確認できます。建築家では3人目の文化勲章受章をはじめ建築学会賞・BCS賞など数多くの名誉を受け、国の重要文化財指定となっている建物が3つあるなど輝かしい業績です。

また、多大な業績を残した村野を記念して、建築界に感銘を与えた作品を設計した建築家を毎年ひとり選んで表彰する、村野藤吾賞は1987年から設けられています。

#### 3 村野のディテール

村野ならではの独特のディテール、デザインが数多くありますが、ここでは代表的なものをいくつか紹介します。

##### ◎階段



【宇部興産ビル】



【宝塚市役所】

何とんでも村野と言えば階段です。階段の魔術師とも称されています。1段目を浮いているように見せ、最初の踊り場は階高の中間より低めに持ってきて安心感を与えています。螺旋階段を多用します。

##### ◎照明



【ザ・プリンス 箱根芦ノ湖】

素材は様々でガラスのほかFRP、布など様々。常識に捉われない創意工夫があります。

##### ◎窓



【南部ビル】



【スターツ笠間ゴルフ倶楽部】

多くの建物でT字型になるように組み合わせた窓を見ることができます。

#### 4 代表的な作品

当日紹介したごく一部の建物をご覧ください。

##### ○大学



【関西大学簡文館】



【甲南女子大学管理棟】

##### ○ホール



【宇部市渡辺翁記念会館】



【米子市公会堂】

##### ○銀行



【北國銀行武蔵が辻支店】



【福岡ひびき信用金庫】

#### 5 むすび

ほんのごく一部しか紹介できませんでした。まだ紹介しきれていないものが沢山ありますし、今年も大阪市内の村野作品の見学会に参加するなど内容を充実させていきますので、ぜひ第3弾をご期待下さい。



## － 美術館建築から見るフランス －

### 谷 正義（県住宅供給公社 企画財務課）

令和4年11月開催の建築セミナーで「美術館建築から見るフランス」というテーマでお話しする機会をいただきました。そのときの内容を抜粋してご紹介させていただきます。

#### 1 美術館を見る視点

美術館はコレクションの対象や設置者などによって分類できますが、美術館を建築の視点で見ていきたいと思っています。美術館の建築は中世の宮殿建築、ホワイトキューブのある建築、駅舎・工場・倉庫をリノベーションした建築など様々です。近代の美術館の歴史は、ルーブル宮殿内に設置されたルーブル美術館からとも言われています。その後、ニューヨーク近代美術館のような白い壁と可動壁のホワイトキューブを備えた美術館なども発展してきました。

#### 2 フランスの魅力的な美術館

建築セミナーでお話しした美術館の一部をご紹介します。

##### (1) クリュニー中世美術館

クリュニー中世美術館はパリ5区のカルティエ・ラタンに位置しています。敷地は1世紀から3世紀にかけて使用されていたローマ時代の公衆浴場の跡です。建物は14世紀にブルゴーニュのクリュニー修道会がパリの拠点として建設した修道院長の別邸です。15世紀に改修され現在の形となりました。建築様式はゴシック後期のフランボワイヤン様式が見られます。1843年に国がコレクションを買い取り美術館が設立されました。所蔵作品は約2万3千点。展示室に絵画、彫刻、ステンドグラス、宝飾品、家具と幅広く展示されています。特に貴婦人と一角獣のタピスリーの連作は有名です。このタピスリーは2013年に六本木の国立新美術館に来日もしました。クリュニーで見るのと六本木で見ると同じタピスリーでも雰囲気が異なります。



##### (2) ギュスターヴ・モロー美術館

ギュスターヴ・モロー美術館はパリ9区に位置しています。最寄りのメトロの駅から歩いて5分ほどの距離にあり、坂を上った住宅街にあります。ここはギュスターヴ・モローが1852年から晩年まで暮



らした住居兼アトリエだった建物です。3階と4階に二つの展示室が増築された後に国に寄贈されました。作品の展示位置から調度品まで生前のままに留め置くようにとの遺言に従う形で、1903年に国立の個人美術館として開館しました。住宅建築の美術館ですので規模は大きくないですが、生涯の業績を鑑賞することができます。展示室を繋ぐ螺旋階段も美しいです。

##### (3) フォンダシオン・ルイ・ヴィトン美術館

フォンダシオン・ルイ・ヴィトン美術館はパリ16区に位置しています。フランク・ゲーリー氏の設計により、2014年にブローニュの森の北側に完成した美術館です。外観は流線形の3次元デザインでガラス曲面が躯体から浮いているように見えます。最上階は街並みが見渡せる屋外テラス。利用可能な床面積は約7,000㎡、3,850㎡の美術館スペースと11の展示ギャラリー、そして360席～1,000席のホールひとつで構成されています。



#### 3 建築や美術作品を体感すること

この3年間は行くことが出来ていませんが、これまで十数回フランス各地を旅してきました。パリ、リヨン、トゥールーズ、モンペリエなどの大都市をはじめ地方の小さな街も歩きました。お隣のベルギー、ルクセンブルク、スイスの街も歩きました。大都市には多くの美術館がありますが、小さな街にも魅力的な美術館があります。そして、フランスの美術館や大規模なプロジェクトでは、日本の建築家も多く活躍しています。例えばルーヴル・ランスのSANAA、ポンピドゥー・センター・メッツやラ・セーヌ・ミュージカルの坂茂氏など。日本の経済的な存在感は残念ながら低下していますが、建築では一定の存在感があります。私達の地元の神奈川県や東京都内にも魅力的な美術館が多くあります。前川國男や坂倉準三をはじめとするル・コルビジエに学んだ建築家の美術館もあります。建築や美術は、現地に行くとはじめて気が付くことが多くて、規模や材質はもちろん日光や湿度などを体感すると、写真とは違う印象を受けることがあります。建築をベースに美術作品、展示手法、周辺環境などを含めて楽しんでいけたら良いと思います。

ご感想などメッセージをいただけたら幸いです。

tani-masayoshi@kanagawa-jk.or.jp

## (1) 明治記念大磯邸園

木原 朋広 (県 建築指導課)

建築指導課では、令和3年から令和4年にかけて、大磯町にある明治記念大磯邸園内の複数の歴史的建築物について、建築基準法（以下、「法」という。）第3条第1項第3号に基づく指定を行いましたので紹介させていただきます。

### 1 背景

「明治150年」関連施策の一環として、国は地方公共団体と連携の下、大磯町に明治記念大磯邸園を設置することを、平成29年に閣議決定しました。

国は明治期の立憲政治の確立等に貢献した先人の業績等を後世に伝えるため、歴史的遺産である旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）等を中心とする建物群及び緑地の一体的な保存・活用を図ることとしました。

### 2 対象建築物・経緯

明治記念大磯邸園内の保存・活用を図る建築物（附属建築物等除く）は、大磯町の指定有形文化財に指定されており、建築物の概要は次のとおりとなっています。

#### 【建築物の概要】

1. 旧大隈重信別邸・古河別邸  
木造、平屋建て、延べ面積 388.42 m<sup>2</sup>、博物館
2. 旧陸奥宗光別邸跡・古河別邸  
木造、2階建て、延べ面積 362.05 m<sup>2</sup>、博物館
3. 旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）  
木造、平屋建て、延べ面積 546.90 m<sup>2</sup>、博物館
4. 西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸  
鉄筋コンクリート造一部木造・鉄骨造、地上2階建て・地下1階、延べ面積 799.85 m<sup>2</sup>、博物館・飲食店・ホテル又は飲食店

この対象建築物を保存・活用するにあたっては、それまで建物の用途を「住宅」としていたものを「博物館」等の用途とする必要があり、用途変更が伴います。また、屋根を葺き替えるなどの大規模な修繕も併せて行うことから、活用の際には法の規定に適合しない部分が発生することとなりました。

そのため、法第3条第1項第3号の規定に基づき、法の適用を除外した上で、保存・活用を図ることとなりました。

### 3 大磯町保存活用条例の制定

法第3条第1項第3号の規定で法の適用を除外する建築物は、「条例の定めるところにより現状変更の規制及び保存のための措置が講じられている建築物」とされているため、法の適用を除外するには、条例による担保が必要となります。

そのため、大磯町では対象建築物の適用除外にあたり、令和2年12月に「大磯町歴史的建築物の保存及び活用

に関する条例」を施行しました。

この条例では、保存活用計画に基づく保存建築物の登録、現状変更の許可、所有者の管理義務、維持管理の報告、中間検査・完了検査等について規定しており、法の規定が除外された場合でも、必要な手続きを行う必要があります。

### 4 法の規定に適合しない部分と代替措置

対象建築物についてはいずれも「住宅」の用途から「博物館」等の用途となるため、用途変更の際には、非常用照明、排煙設備及び廊下の幅の規定について、共通に現行の基準に適合しない部分が発生することとなりました。その他、旧滄浪閣や西園寺邸については、規模が大きくなることから、防火区画や内装制限、準耐火性能の要求などについても適合しない部分がありました。

適用除外の指定にあたっては、歴史的な価値などの特殊性を考慮するもので、建築物が安全上等の観点から支障がないと認めるものではないため、代替措置によって一定の安全性を担保しました。

主な代替措置は、ハード対策として、放水銃、炎感知器、ドレンチャーの設置、漏電遮断器、感震ブレーカーの設置、ソフト対策として、敷地内の火気不使用、機械警備、利用者の入場制限、避難経路上の戸の常時開放などとなりました。

その他、避難安全性の確保として、就寝施設を有する西園寺邸については避難安全検証法に準じた検証方法により煙降下時間前に避難できること、構造安全性の確保として、木造建築物の耐震補強計画については第三者委員会の評定を取得することで、安全性を確認しました。

### 5 建築審査会の手続

明治記念大磯邸園の法第3条第1項第3号の指定については、通常は建築審査会には1回で諮るところですが、大磯町の条例の制定前や附議の前に事前に説明するとともに、審査会委員に現場を視察いただくなど丁寧に説明を行った上で建築審査会に附議し、同意を得ることができました。

### 6 最後に

現在は改修工事の最中であり、今後、中間検査・完了検査を経て、一般に公開されることとなります。大磯邸園では3条指定の建築物の改修と併せて、邸園の整備や新築棟の建設などが行われる計画ですので、大磯を訪れる際は立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸 和室（国交省HP）



## (2) かながわ昭和たてももの散歩

村島 正章（県住宅供給公社 賃貸事業部）

（一社）神奈川県建築士会創立70周年記念書籍である本書に、編集チームリーダーとしてずっと関わってきましたので、本書の見どころ、編集の苦労話を紹介します。

### 1 はじめに

初めて本書の企画を挙げたのは、4年前の年号が令和に代わる前の平成30年度のことでしたが、刊行までに予想をはるかに超える労力・日数を費やすことになりました。



テーマについて、50周年記念の「かながわ建築ガイド」、60周年記念の「図説・近代神流川の建築と都市」とは別の視点でどんな内容がよいのか、内田青蔵先生（現神奈川大学建築学部長）や水沼淑子先生（現関東学院大学名誉教授）に相談した結果、二昔前となった“昭和”にスポットを当て、県内にある昭和時代に竣工した建物を対象とし、一般の市民の皆さんにも手に取っていただけるように、写真は全てカラーでライトな解説、楽しい紙面をめざすこととしました。

### 2 取材・編集の苦労

新型コロナウイルス感染症の拡大により、紹介建物の写真撮影や店舗等の取材に直接出向けず、編集チーム内部での対面打ち合わせもままならず、紙面構成がなかなか決められませんでした。また、目星をつけた店舗等に掲載依頼をする際に、「神奈川県建築士会」〇〇と名乗っても、士会の存在に対する認知度が全く無く、色々説明して漸く本自体の話に入るような状態。しかも掲載に当たっては、掲載料がかかるものと思われ、そうでないことを理解してもらうことにも苦労しました。中には、怪しい団体だと思われたり、開口一番拒否されたり、刊行間近で掲載不可との連絡が入ったものもありました。また、社寺や史跡は、どこが管理しているのかというところから調べることになり、相手方からの了承を得るのにも時間を要しました。極め付きは、街歩きマップ掲載施設の数が増大で、掲載写真・原稿校正の所有者等への連絡・承諾に係る労力は大変なもので、一時は刊行ができないのではないかと諦めかけた時期もありました。

### 3 本書の構成など

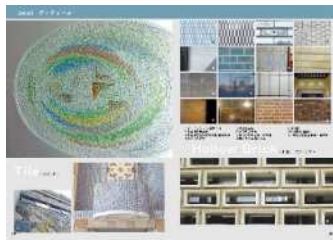


紹介する建物は全て会員から推薦された現存しているものとし、令和2年秋にアンケートを取った結果、最終的に117の建物を支部単位ごと（横浜は数が多いため、中区とそれ以外に分割）に紹介しています。

これまであまり知られていない建物もあって、面白い

ものになったと思いますが、33市町村のうち、14の市町村において1つも紹介できないのは残念でした。

一般の方にも掲載した建物に足を運んでもらえるよう、支部単位ごとに街歩きマップを掲載し、掲載建物に加えて、社寺や史跡、歴史的建造物や美術館・博物館、飲食店・菓子店、更にはマンホールに至るまで幅広く取り上げ、その周辺をランチしながら歩いて、まちを知ってもらうことを期待しています。



建物の特徴的な部分をディテール編で部位ごとに紹介しているので、それはどこの部分なのか、実際に実物と見比べてほしいと思います。

3名の建築史専門の先生方と当会会長との座談会を行い、本書や昭和の建物の特徴、その保存・利活用などについて語っていただいた内容も掲載しています。



コラムとして、「防火帯建築」・「団地」の解説、不幸にも火災で焼失した建物が再建（予定を含む）されたものを「よみがえる昭和のたてももの」として紹介しています。

面白いところでは、紹介している建物を2つ以上手掛けている8人の建築家は、生誕の早い順に似顔絵付きで略歴・代表作品を紹介しました。巻末には、歴史ある神奈川建築コンクール入賞作品や指定・登録文化財などのリストを掲載していますので、建築資料としても大いに活用いただけると思います。

そして、もう一つのお楽しみとして、本書に掲載しているある建物の「折り紙建築」の型紙を付録として綴じ込み、ご自身でどんな建物が現れるかチャレンジしていただくという趣向付きです。



### 4 おわりに

本書は、市町村図書館関係のみならず、将来建築の道に進んでいただけるよう、県内の高校・大学のすべてにも贈呈しました。また、有料でも購入できますので、友人知人、親戚の皆さんに紹介いただけたら幸いです。

令和5年度には各支部とコラボして、本書を片手に各地域の街歩きも企画していきますので、ぜひ参加してみてください。

### (3) オープンしなけん ボランティア

大河戸 正明 (県 住宅計画課)

品川区の建築公開イベント『オープンしなけん 2019vol\_2, 2020, 2022』に、ボランティアとして参加しましたので、その概要を報告させていただきます。

#### 1 オープンしなけんとは

みなさんは『オープンしなけん』をご存知でしょうか。近年、大都市や歴史的建造物を有する都市を中心に、普段見ることができない建築物を一斉公開するイベントが開催されています。

1992年にロンドンで始まった建築物等の一斉無料公開イベント「オープンハウスロンドン (Open House London)」は、内外から延べ約36万人が参加するビッグイベントに成長しています。国内では、「生きた建築」を通して、いつもとは一味違う大阪を感じる公開イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 (イケフェス大阪)」が、日本最大の規模を誇り、全国各地から延べ5万人が参加する取り組みとなっています。

『オープンしなけん』も、品川区の〈歴史的・魅力的建築物〉を、所有者の協力を得て1日限りで特別公開するイベントで、2019年から開催されています。〈歴史的・魅力的建築物〉の選定は、区内の建築物で、意匠性や革新性などの指標を満たすことを条件としています。品川区役所建築課の事業で、一般社団法人 東京建築アクセスポイントが企画しています。



【あじあん (設計者 磯崎新)】

#### 2 ボランティアとして参加したきっかけ

もともと県のNPO活動体験派遣研修に参加したことをきっかけに、地元のまちづくり活動に少し関わっていました。そのような中で品川区に引っ越し、せっかくならと建築関係のボランティアを探していたところ、『オープンしなけん』のボランティアスタッフの募集があり、参加しました。

主な活動内容は、ツアーのサポート、公開建物での受付、備品の準備、アンケートの整理、レポートの作成などでした。



【東京デザインセンター(設計者 マリオ・ペリーニ)】

#### 3 オープンしなけんに参加して

ボランティアとして次のツアー等をサポートしました。

〈オープンしなけん2019vol\_2〉公開建築物：有時庵、建物別ガイドツアー：大井バプテスト教会

〈オープンしなけん2020〉魅力発見ウォーキングツアー：桜田通りにある名建築 (東京デザインセンター⇒白雉子ビル・雉子神社⇒日蓮宗妙建山本立寺旧本堂等)

〈オープンしなけん2022〉公開建築物：有時庵、白雉子ビル・雉子神社



【建物別ガイドツアー (大井バプテスト教会)】

見に来られるのは主に建築関係者だろうと思っていましたが、それ以外の方が6割を超えていました。また、約半数の方が一人で参加されているのも少し意外でした。

そういった影響もあるのか、受付等をしていると「近所にこんな建物があったのね」など話し掛けられることが多く、楽しく活動することができました。最近、雑誌等で建築が取り上げられることも増え、一般の方も建築に興味を抱くようになったと感じます。沢山の歴史的建造物を有する横浜などでも、このような多くの方々に向けた建築公開イベントが開催されたらと思いました。

最後に話は変わりますが、NHKの「近現代ビルのスゴみを深掘りする、ビルのビルによるビル好きのための建築ナゾ解き番組『すこぶるアガるビル』」も、「新宿西口広場と小田急百貨店」が紹介されるなど興味深いです。

#### 編集後記

昨年度は、新型コロナで中止していた施設見学会などを再開できましたので、支部の活動報告として掲載しました。今年度も、皆様とお会いできるイベントを開催する予定です。ご期待ください！(編集担当：辻本清一、大河戸正明)